

新型コロナウイルス感染症の 県内の第六波の現状

於：厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード

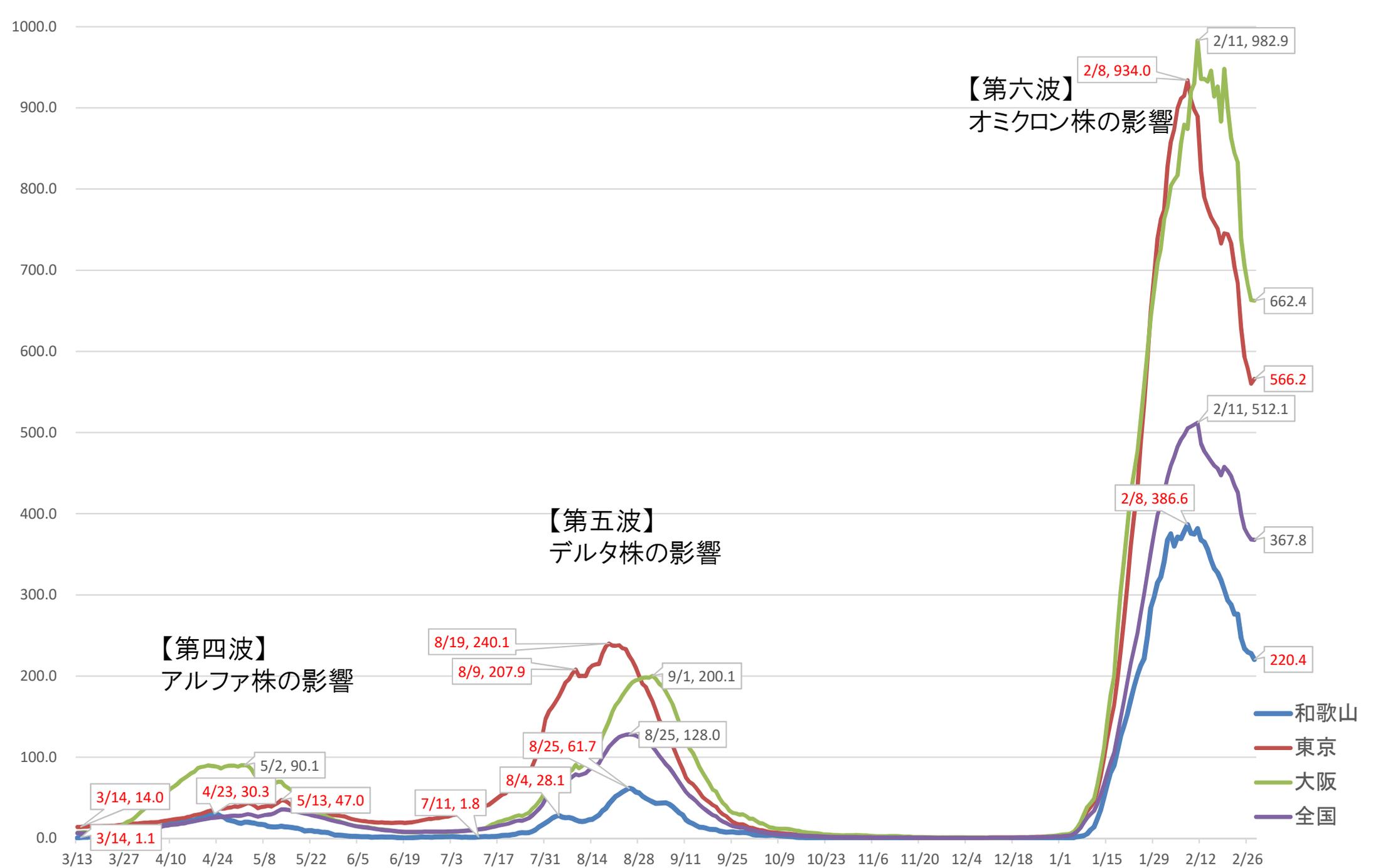
和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2022年3月2日



感染動向の推移（全国・東京・大阪・和歌山） 1週間・人口10万人当たり

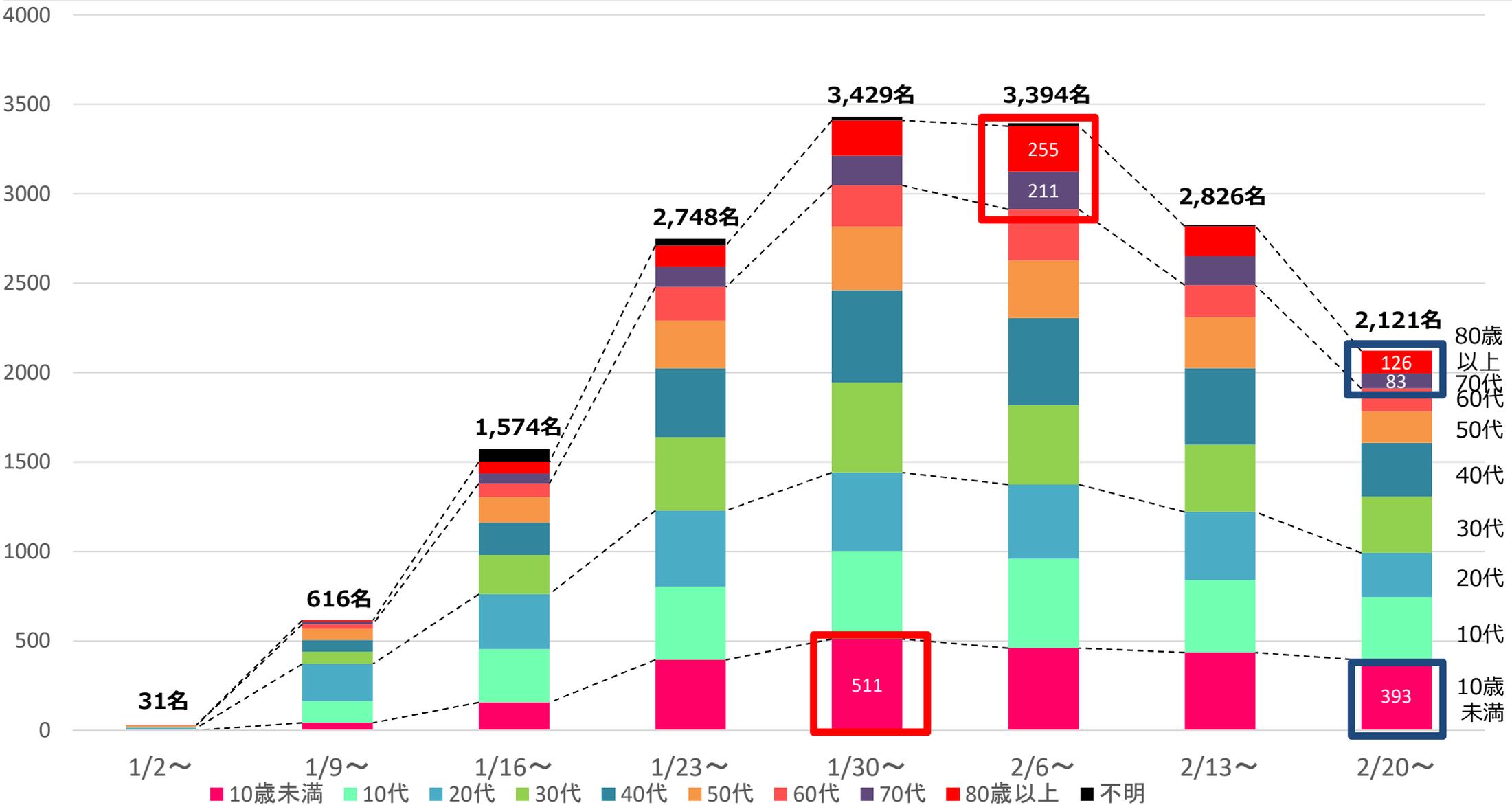
令和4年2月28日現在



県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

(2月26日発表分まで)
第六波～ 16,739名

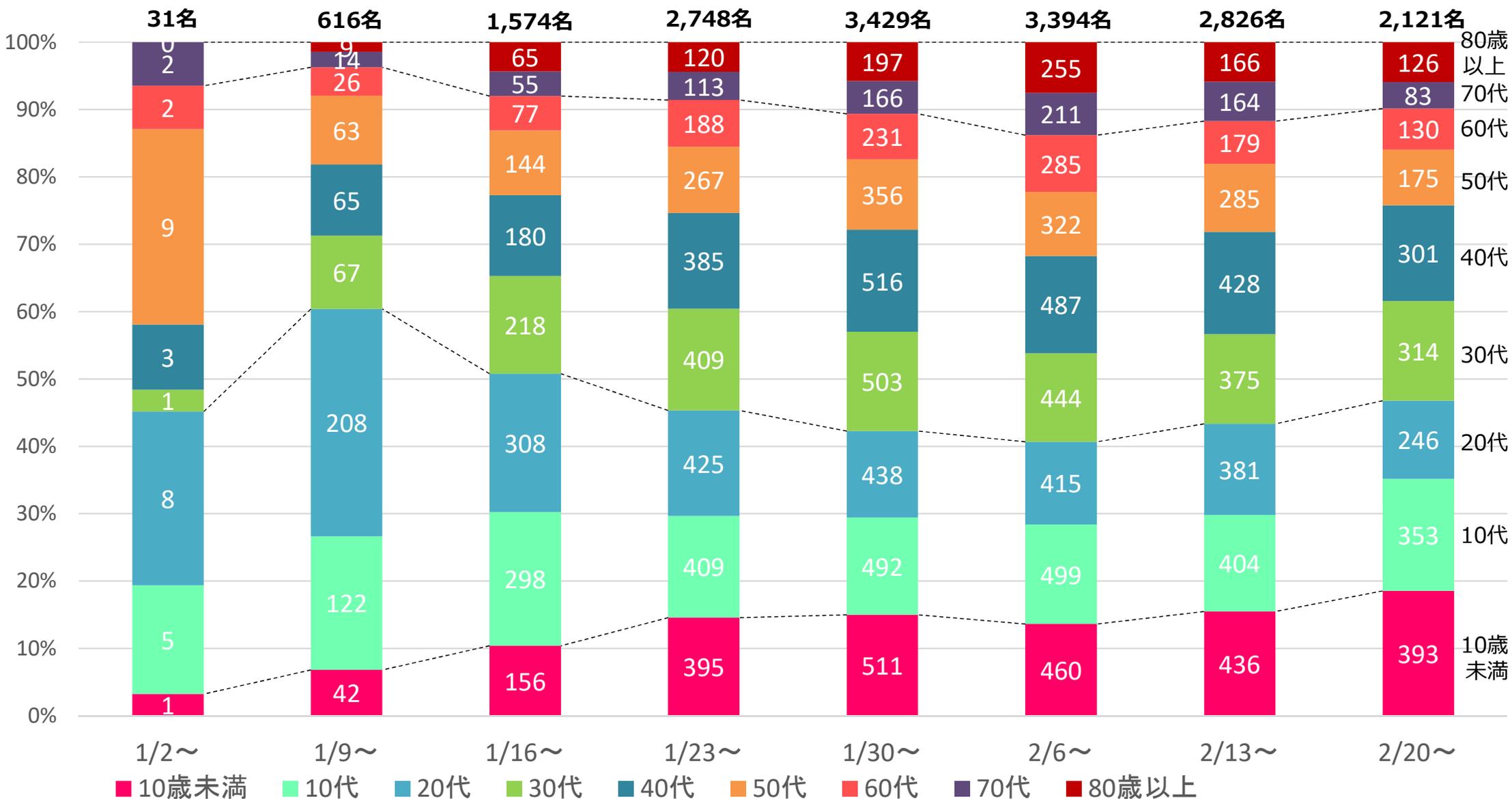
- 第六波のこれまでのピークは、1月末から2月の第一週で、小児の感染が増えたことが最大の原因と思われる。
- 第六波で高齢者が最も多かったのは、2月の第二週で高齢者施設関係のクラスターや家族内感染が増えたことによるとと思われる。
- 第六波の感染者数は、2月の第三週から減少しているが、高齢者施設関係のクラスターが減少したことや小児の感染者数が減少したことによると考えられる。



県内の第六波以降の週別年齢別感染者数

(2月26日発表分まで)
第六波～ 16,739名

- 第六波のこれまでのピークは、1月末から2月の第一週で、小児の感染が増えたことが最大の原因と思われる。
- 第六波で高齢者が最も多かったのは、2月の第二週で高齢者施設関係のクラスターや家族内感染が増えたことによると思われる。

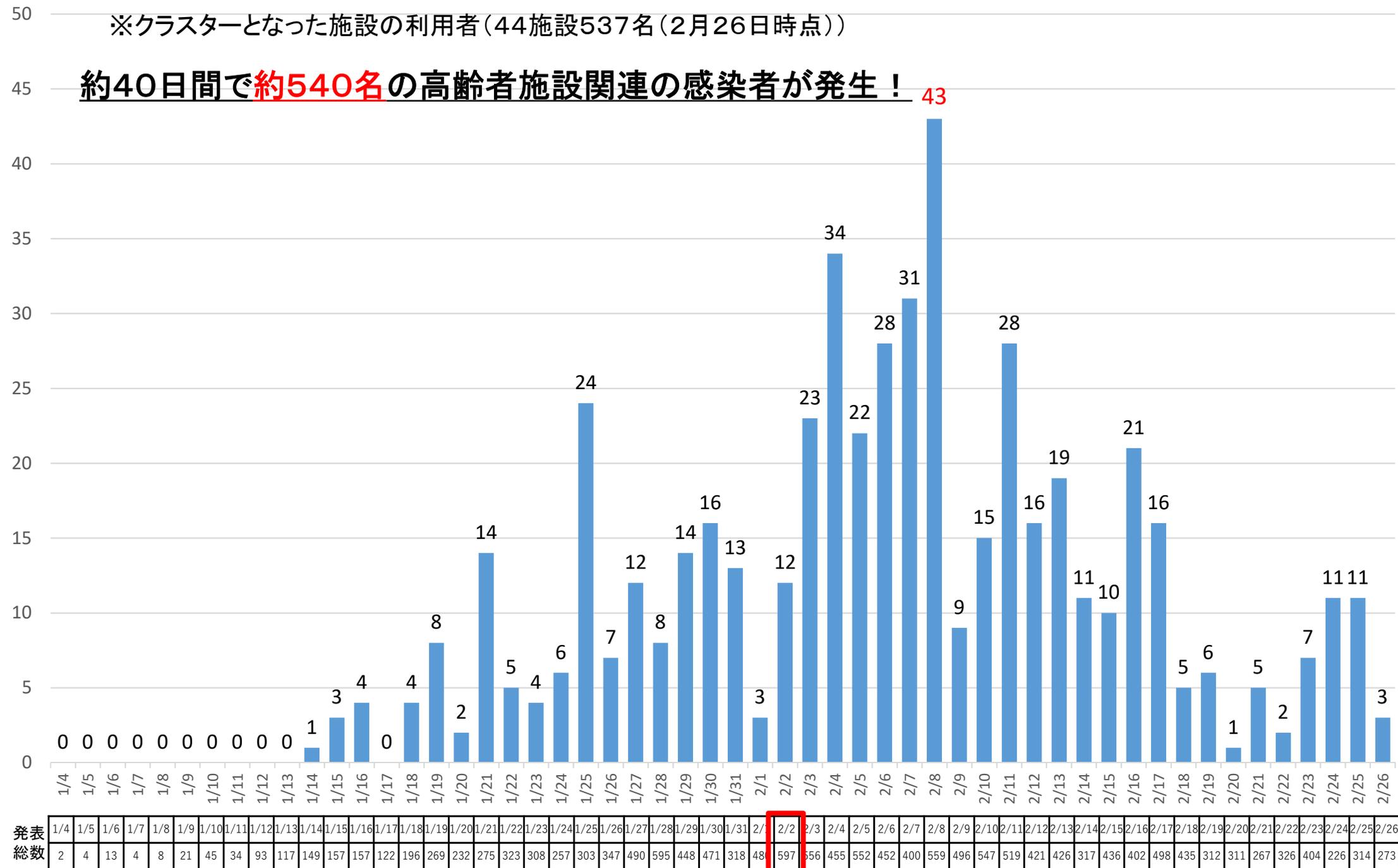


※グラフは年代不詳分を除いているため、各年代の合計値と各週の人数(上部の数)が一致しない場合がある。

高齢者施設利用者の新規感染発表数の推移（第六波）

※クラスターとなった施設の利用者（44施設537名（2月26日時点））

約40日間で約540名の高齢者施設関連の感染者が発生！

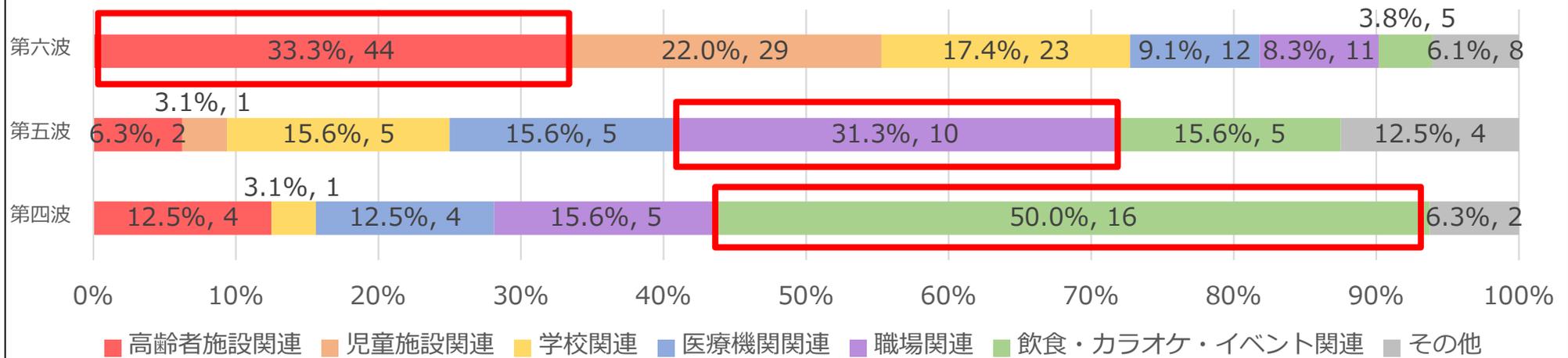


クラスター発生数 第四波～第六波

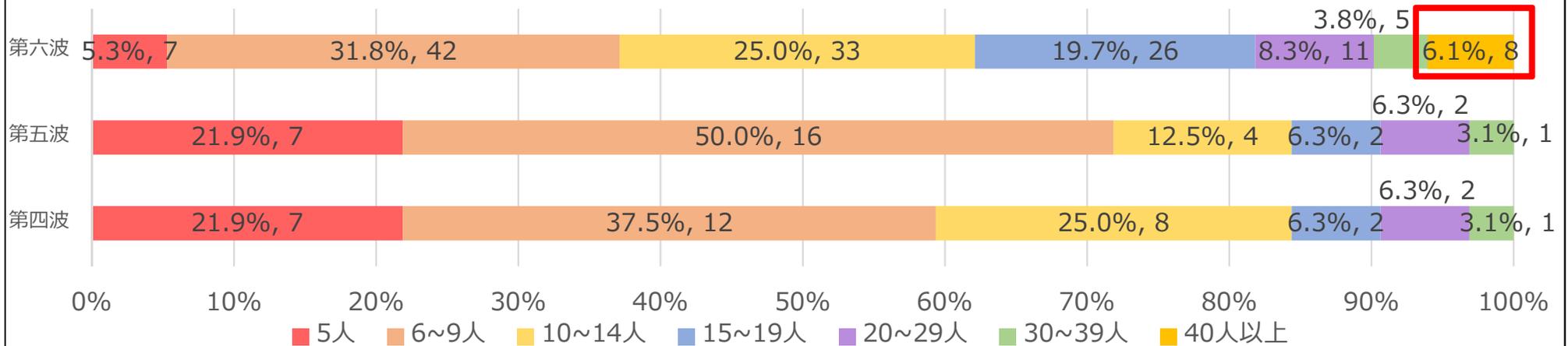
令和4年2月26日時点

- クラスターが最も多かったのは、第四波では、飲食・カラオケ・イベント関係、第五波では、職場関係、第六波では高齢者施設であった。
- 第六波のクラスターは、オミクロン株の感染拡大のスピードの速さによると考えられるが、40人を超える大規模の発生が複数見られた。

クラスター施設



クラスター発生規模



肺炎併発者の分析

第六波における肺炎患者の状況

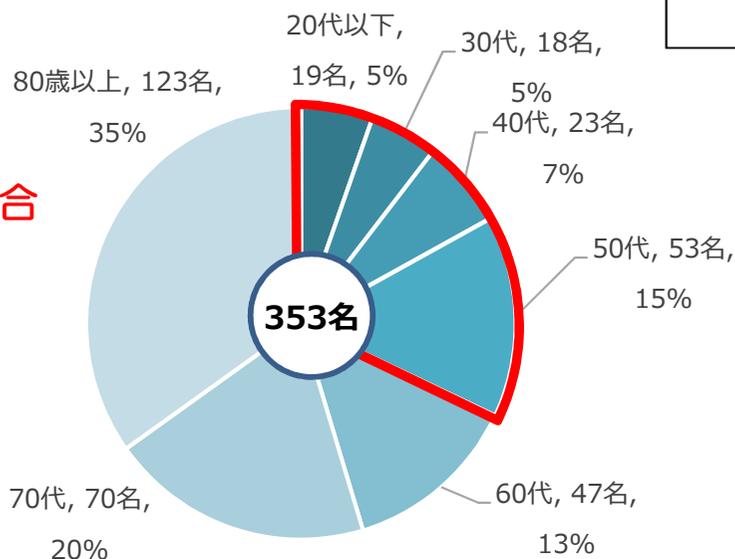
令和4年2月10日時点
N=353

- 第六波の令和4年1月4日から2月10日に入院した感染者のうち肺炎を確認した353名（入院者の約18%）について分析した。
- 肺炎の併発は60代以上の高齢者に多いが、30代以下の若者も約10%いた。最年少は10歳未満であった。
- 肺炎を併発した者のうち約3割が酸素投与が必要になっている。
- 約4割に抗体療法が、半数以上に抗ウイルス薬が投与されていた。

年代別

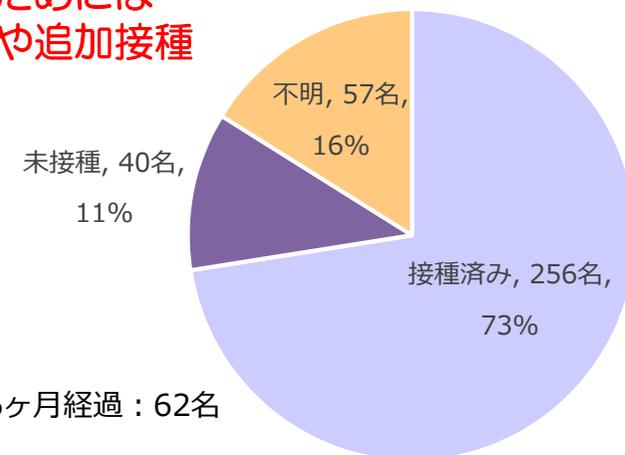
肺炎の併発は高齢者に多いが、50代までの若年・壮年層の割合が約3割を占める

男性	198名
女性	155名



ワクチン接種

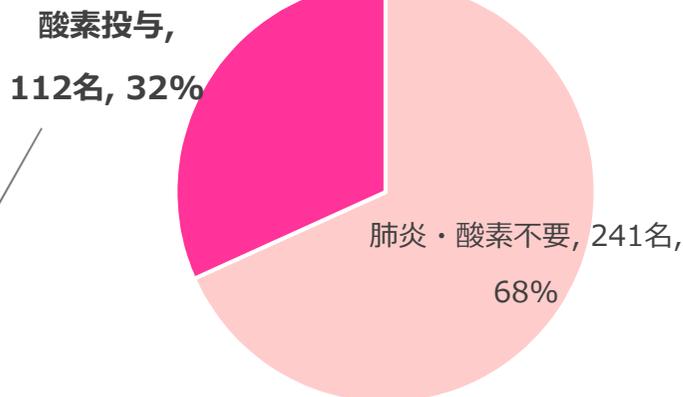
重症化を防ぐためにはワクチン接種や追加接種が重要



重症度

肺炎併発者のうち約3割に酸素投与が必要

うち人工呼吸器：4名
高流量酸素：18名



治療薬

様々な治療薬が使われているが、治療効果を発揮するためには、早期受診が必要

抗体薬	150名
抗ウイルス薬	192名
ステロイド薬	78名

※重複投与を含む

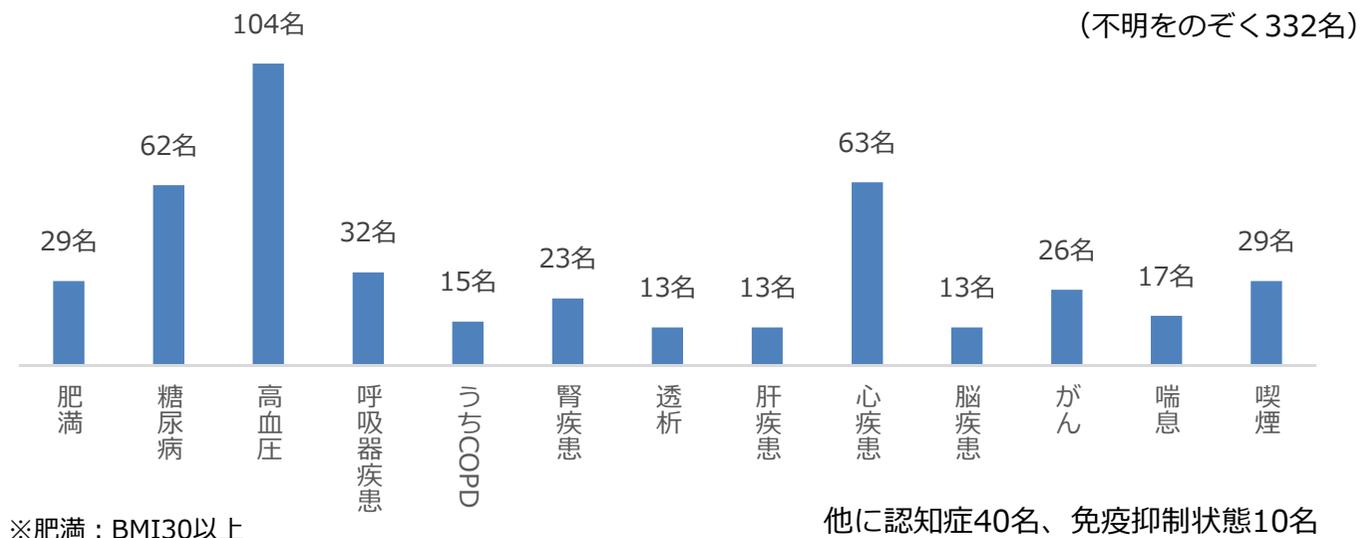
第六波における肺炎患者の状況

令和4年2月10日時点

- 肺炎併発者の基礎疾患は、高血圧、心疾患、糖尿病、呼吸器疾患、肥満、がん、腎疾患が多かった。喫煙も多いことに留意する。
- 発症から検体採取までの日数は、約4割が発症日であったが、19名（約6%）は発症5日以上かかっていた。受診・診断が遅れた者は重症になることが多い。

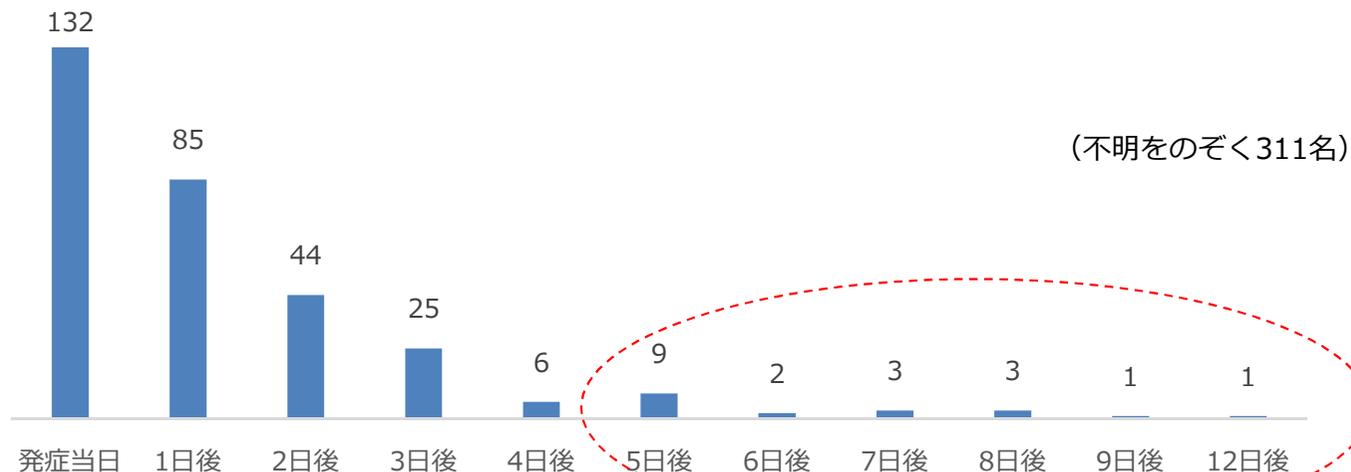
基礎疾患の状況

糖尿病や高血圧・心疾患といった生活習慣病はリスクが高い



発症～検体採取までの日数

5日以上かかった19名中
酸素投与が必要となったのは9名
うち人工呼吸器1名、高流量酸素4名



第六波における肺炎患者の状況

令和4年2月10日時点

- 肺炎併発者が、陽性判明時に無症状であった者が約6%いた。年代では、高齢者の方が多かった。これは、クラスター発生により検査に早期につながったことによると思われる。ただし、若い人も当初無症状でも経過中に肺炎を併発する者がいることに留意する。
- 肺炎併発者が、陽性判明時に有症状であった者は、幅広い年代にわたっていたが、特に、高齢者では重症化する者が多い。

当初症状と経過中の症状

(不明をのぞく329名)

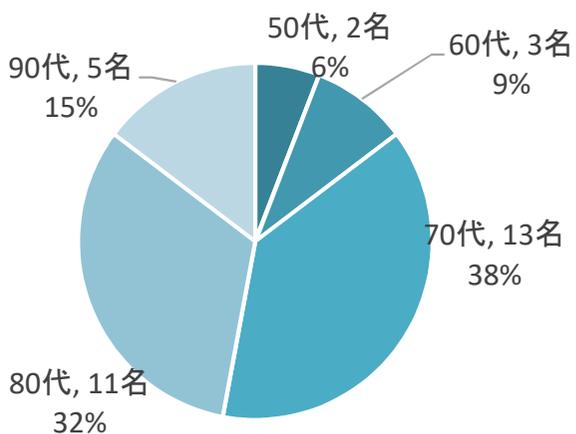
当初症状	経過中の症状	合計	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
無症状	肺炎	19			1	1	3	3	4	7
	酸素投与	5					1		1	3
	うち人工呼吸器・高流量酸素	2							1	1
	うち死亡	0								
有症状	肺炎	310	1	18	15	21	46	40	61	108
	酸素投与	99			1	1	3	12	22	60
	うち人工呼吸器・高流量酸素	19					1	2	8	8
	うち死亡	6							2	4
合計		329	1	18	16	22	49	43	65	115

第六波における国基準相当重症患者について

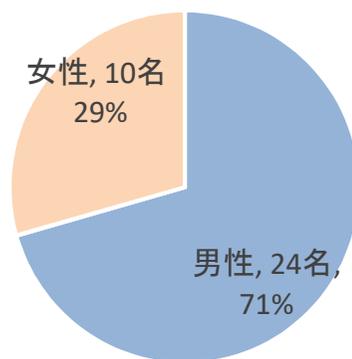
N=34名

- 高流量の酸素投与が必要な肺炎があり、I C U等に入室したり、人工呼吸器装着をした重症者は、50代以上で特に、70代以上の高齢者に多い。性別では、男性に多い。
- 基礎疾患として高血圧、心疾患、腎疾患、糖尿病、がん、呼吸器疾患、透析患者に多いが、基礎疾患なしもあった。
- 第六波ではワクチン接種効果が減弱され、2回接種者でも重症化した。陽性判明時無症状でも注意が必要である。

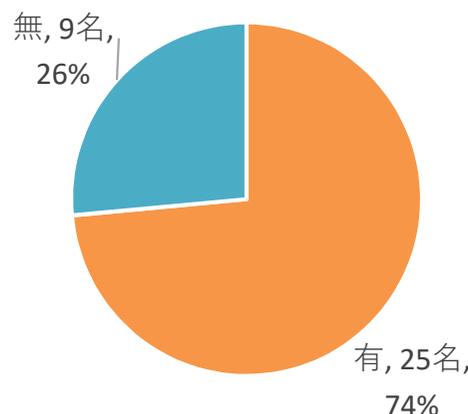
1. 年代



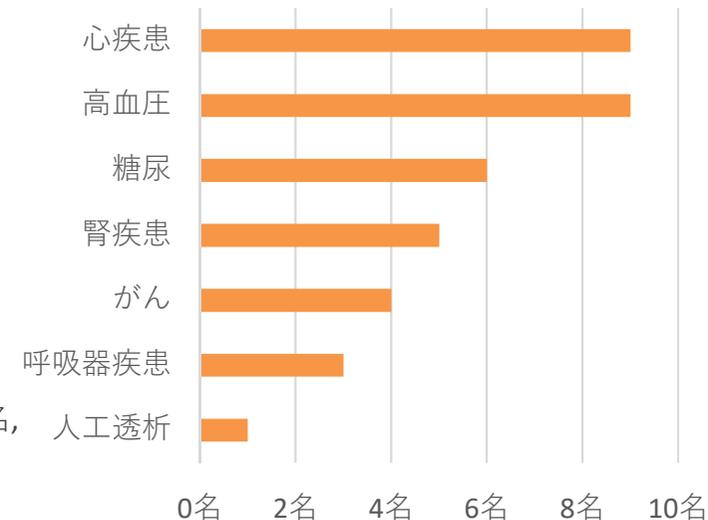
2. 性別



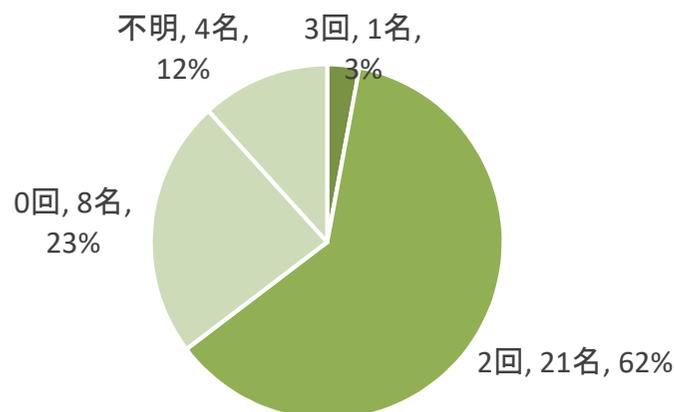
3. 基礎疾患



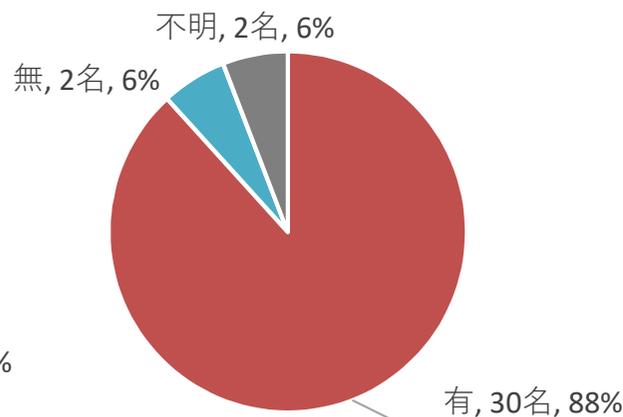
(重複を含む。)



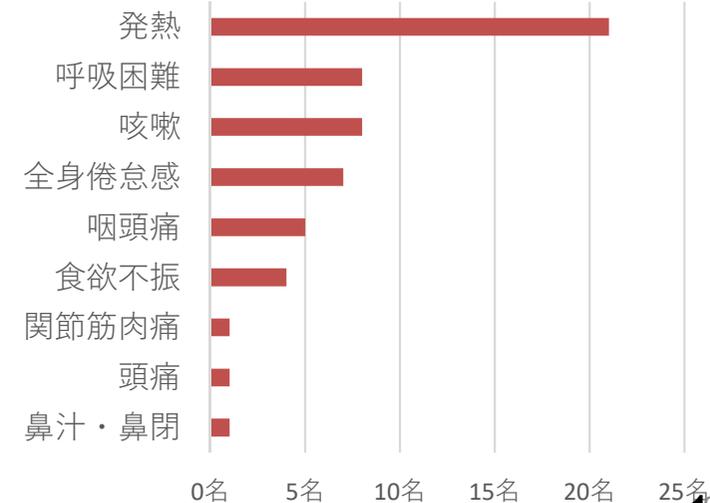
4. ワクチン接種回数



5. 陽性判明時症状



(重複を含む。)



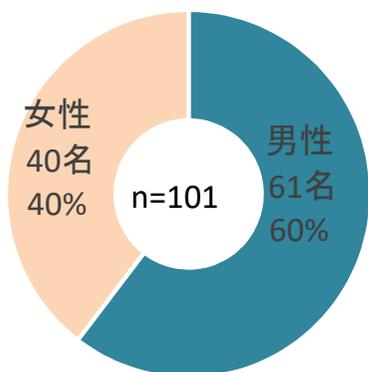
死亡の状況

死亡（間接死因含む）の状況

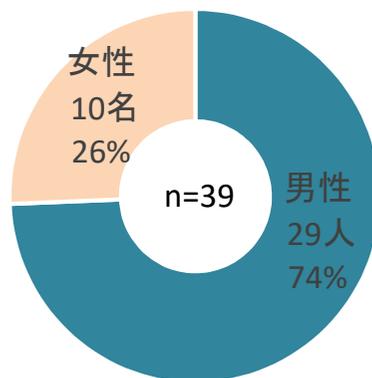
令和4年2月26日発表まで

- これまでの死亡者101名のうち男性の方が多く、70代以上の高齢者は約94%で、男性が多かった。
- 第三波、第四波では、高齢者の感染者が増加したことにより、死亡者も増加したが、ワクチン接種効果により第五波では、致死率は減少した。
- 第六波では、男性が多く、90代以上の高齢者が多かった。第六波は爆発的な感染拡大が起こったが、致死率はむしろ減少した。

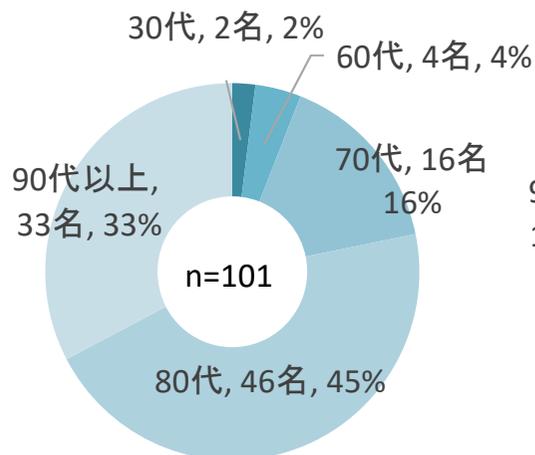
性別（全体）



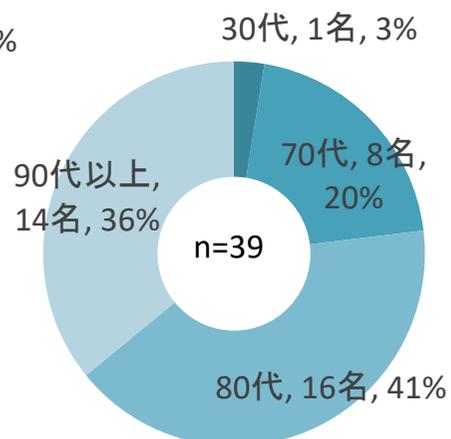
性別（第六波）



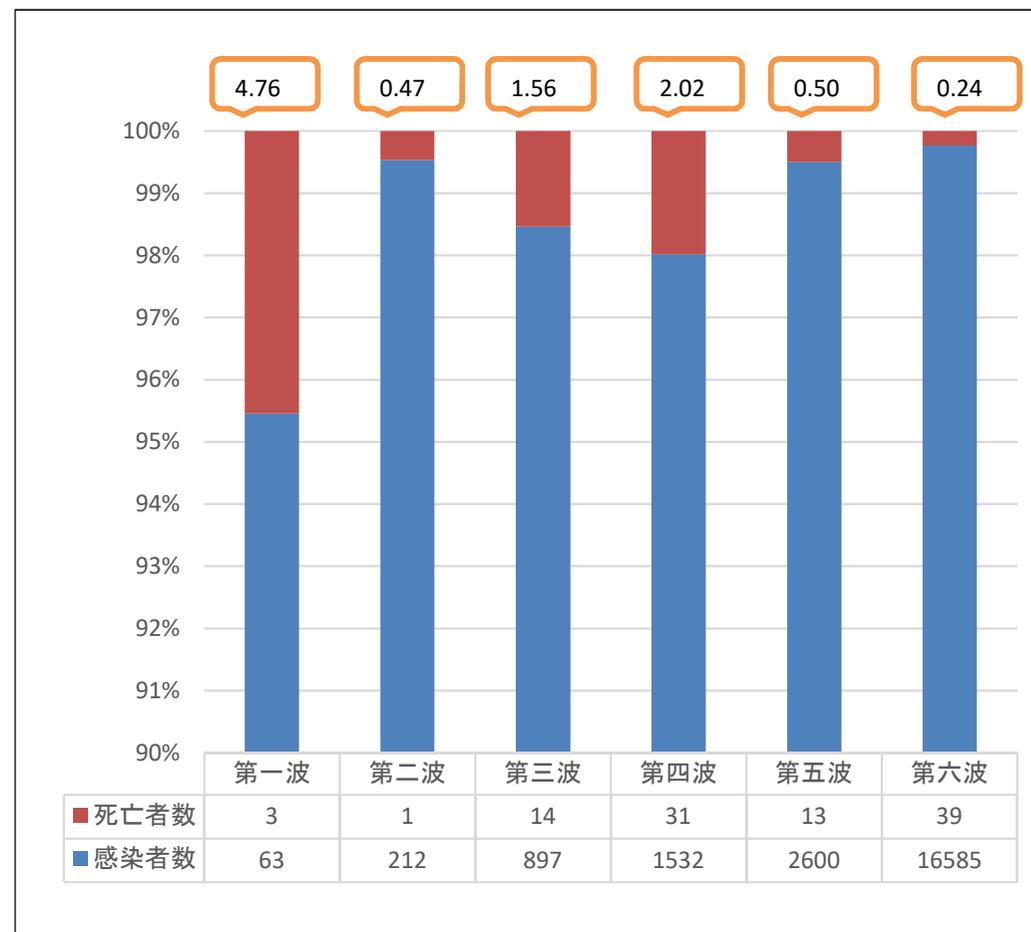
年齢別（全体）



年齢別（第六波）



波別の致死率

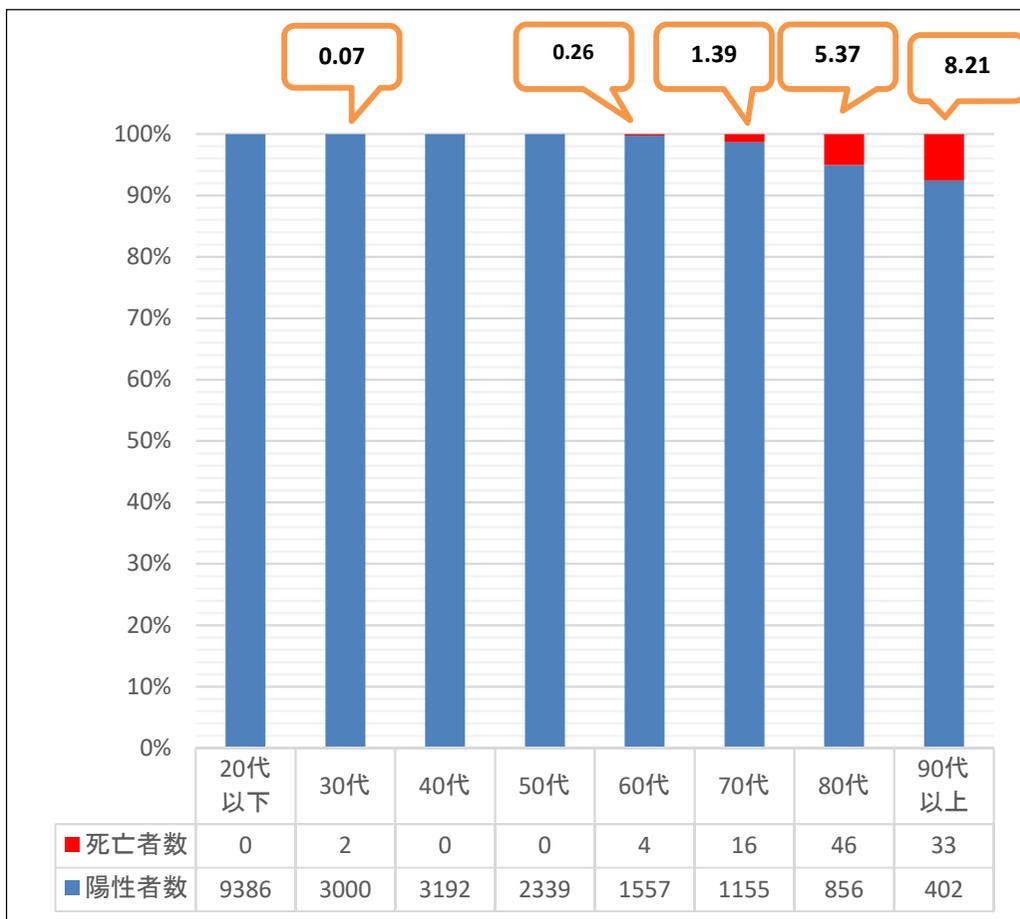


死亡（間接死因含む）の状況

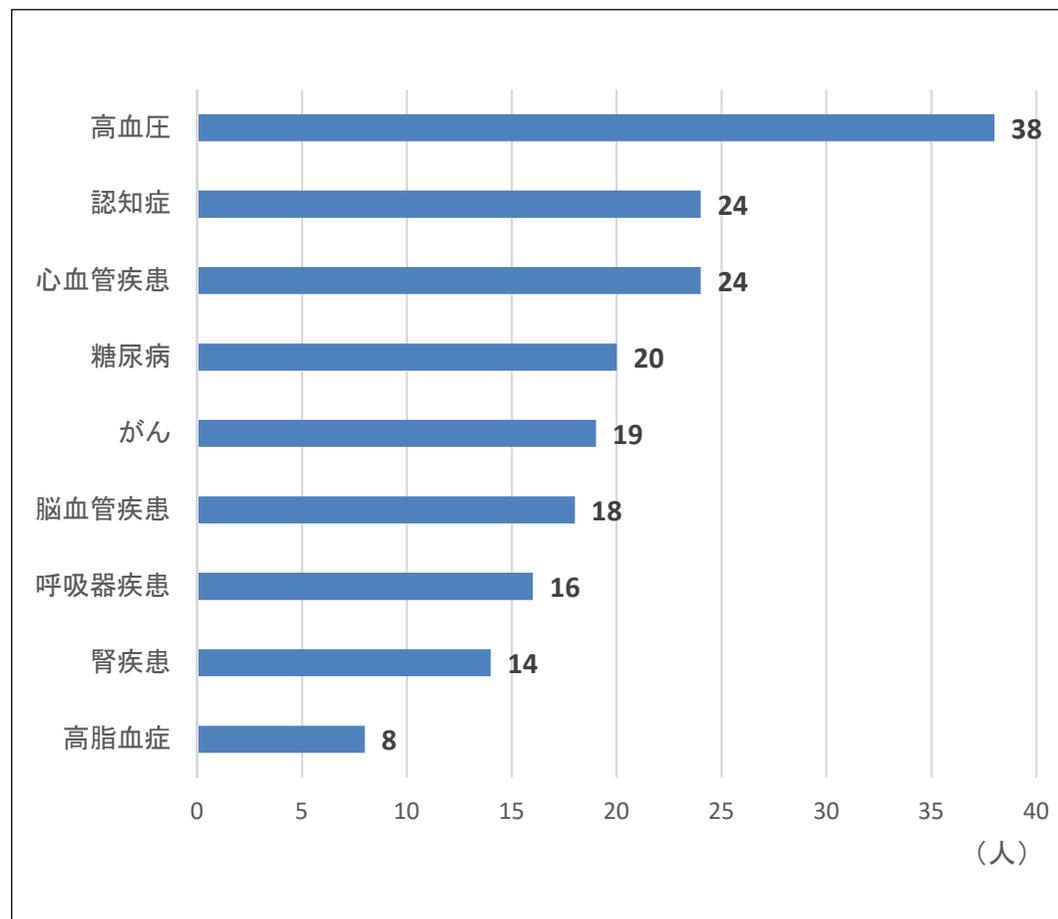
令和4年2月26日発表まで

- これまでの死亡者101名のうちの年代別致死率は、60代から増えていた。特に、80代以上の高齢者で高かった。
- 死亡者の主な基礎疾患は、高血圧、心血管疾患、糖尿病、呼吸器疾患、がん、腎疾患が多かった。高齢のため認知症、脳血管疾患も多かった。

年代別の致死率



主な基礎疾患（重複あり）



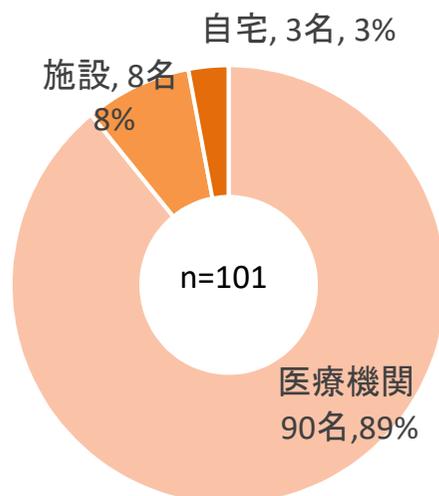
死亡（間接死因含む）の状況

令和4年2月26日発表まで

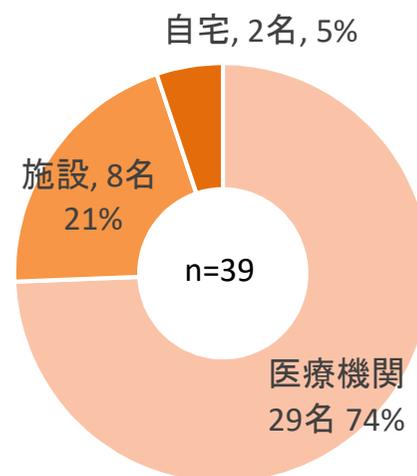
- これまでの死亡者101名のうちの死亡された場所は、病院が最も多く、次いで施設、自宅がわずかにあった。
- 第六波では、高齢者施設で多くのクラスターが同時期に発生したことも影響して、施設内での死亡者が7例あった。また、自宅で高齢者が家族に見守られながら亡くなられた方もいた。
- ワクチン接種について、高齢者の接種が進んだ第五波と第六波を比較すると、第六波の方がワクチン接種者が多かった。

死亡場所

死亡された場所（全体）

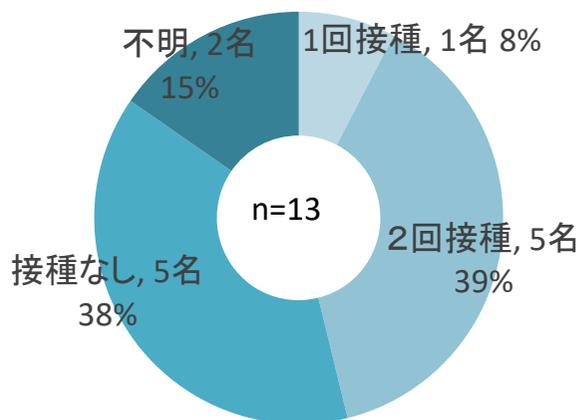


死亡された場所（第六波）

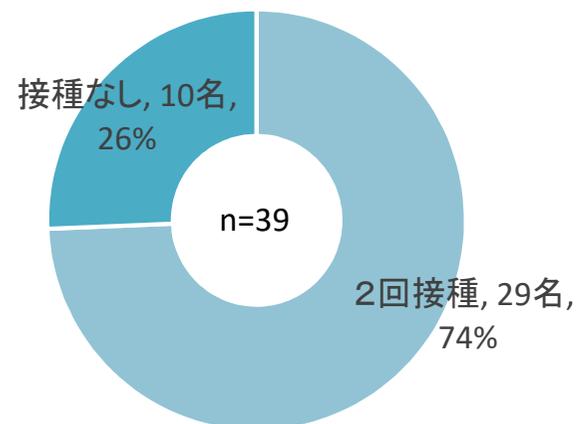


ワクチン接種

ワクチン接種歴の有無（第五波）



ワクチン接種歴の有無（第六波）



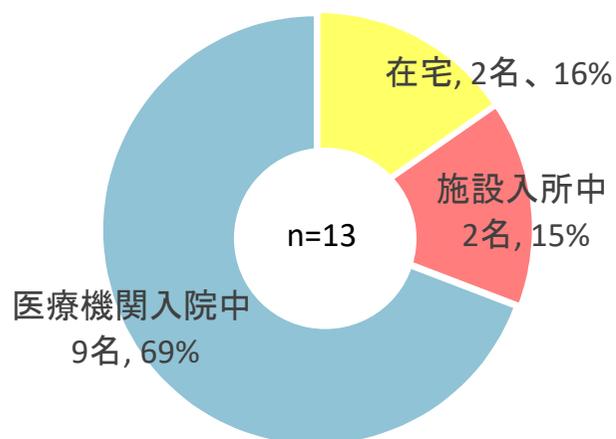
死亡（間接死因含む）の状況

令和4年2月26日発表まで

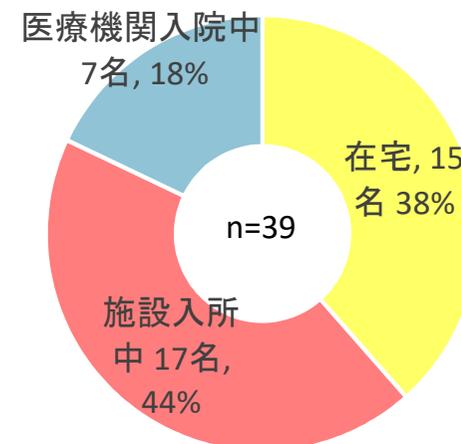
- これまでの死亡者101名のうち、ワクチン接種が進んだ第五波では、死亡が13名と少なく、医療機関でのクラスターの発生により入院中の患者が陽性になった。また、在宅や施設入所者も全例入院したことから死亡場所も全て医療機関であった。
- 第六波では、ワクチン効果の減弱等により高齢者施設でのクラスターが多発したことから、入所中に陽性になった者が増えるとともに、全員入院が困難になり、施設での死亡が増えた。また、在宅医療を受けていた等の高齢者が自宅で死亡された。

陽性判明時の場所（第五波）

陽性判明時の場所

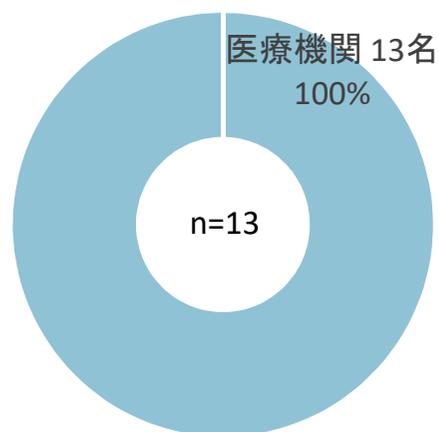


陽性判明時の場所（第六波）

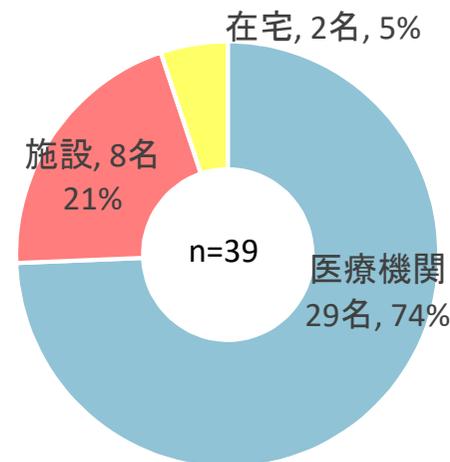


死亡された場所（第五波）

死亡場所



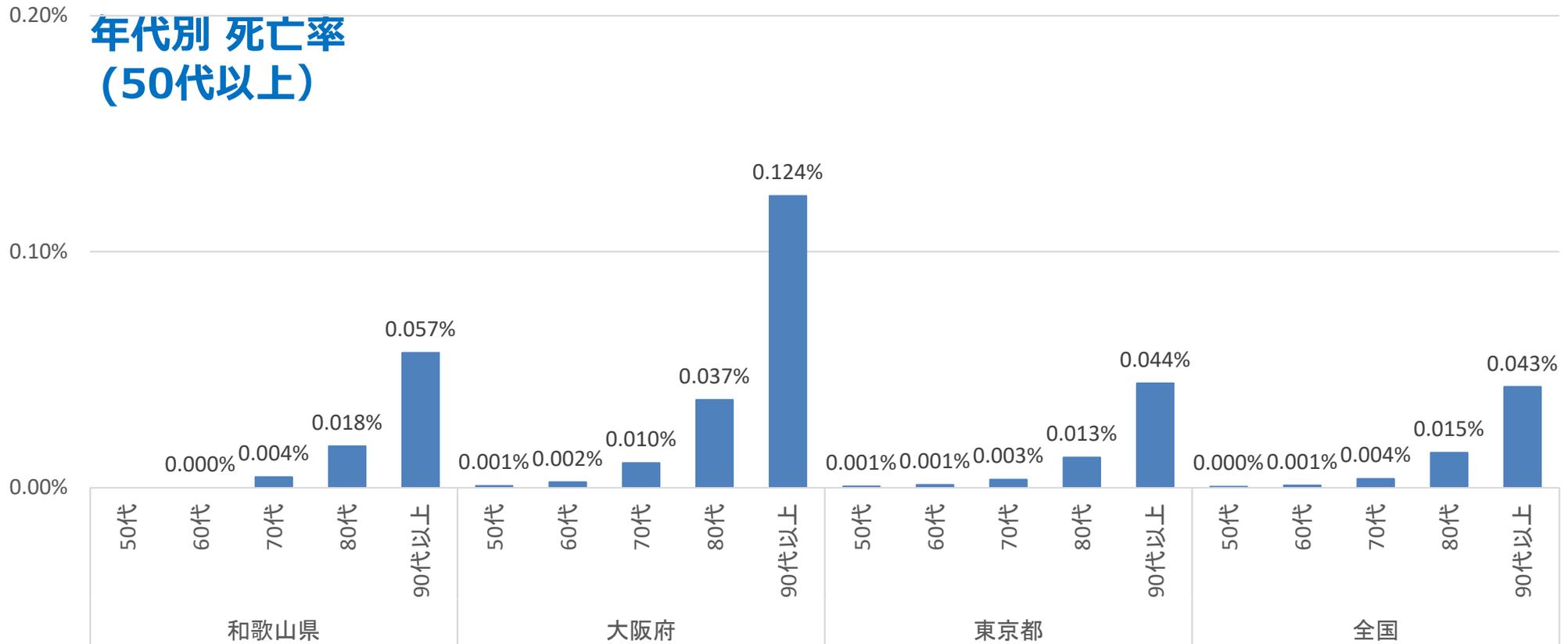
死亡された場所（第六波）



第六波における新型コロナ 死亡率の比較

令和4年1月5日～2月22日

- 第六波では、高齢者施設でもクラスターが多発し、規模も大きかったことから、高齢者の感染者が急増した。このことから、高齢者の死亡も多くなった。※令和4年1月5日～2月22日の死亡者数 34名
- 本県では、コロナでの間接死因も含んでいる。他府県との単純な比較には注意を要する。



年齢調整
死亡率

0.78

1.70

0.66

0.68

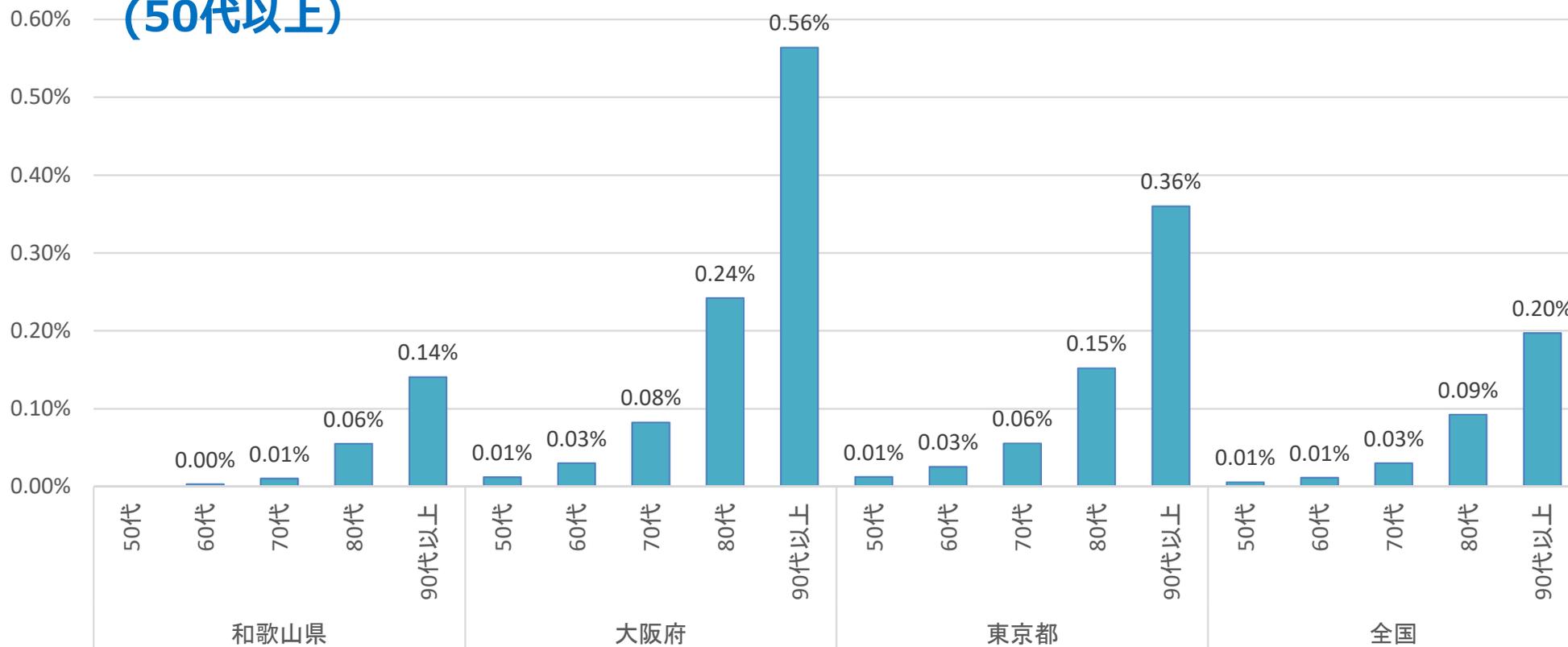
※1/5～2/22。人口はR2国勢調査。年齢調整は昭和60年モデル人口を使用
死亡者数は、厚生労働省「データからわかる－新型コロナウイルス感染症情報－」から。年齢不詳データを除く

新型コロナ 死亡率の比較（これまでの累計）

令和4年2月22日時点

- 令和4年2月22日までに確認した死亡者総数は96名で、都市部、全国と比較すると低位で抑えられている。
- 本県では、コロナでの間接死因も含んでいるが、80代以上で死亡率は高くなっている。

年代別 死亡率 (50代以上)



年齢調整 死亡率

2.27

13.68

10.31

5.36

※R4.2.22までの累計。人口はR2国勢調査。年齢調整は昭和60年モデル人口を使用
死亡者数は、厚生労働省「データからわかる－新型コロナウイルス感染症情報－」から。年齢不詳データを除く

高齢者施設における ワクチン接種後の抗体保有追跡調査結果

ワクチン2回接種6か月後の年齢とS抗体値の分布(全体)

- ワクチン接種6か月後のS抗体値は、年齢が高くなると低値となり、特に高齢者で低値となっている。
- 陰性者も2名いた。うち1名は1か月後は陽性であったが、6か月後は陰性となった。なお、N抗体陽性者はいなかった。

